



京都市長 門川 大作

参加と協働による持続可能なまちづくりを

「市民・区民が主役のまちづくり」

私は市長就任以来、この方針を軸に市政に邁進してまいりました。そして、未曾有のコロナ禍の中、改めてこの言葉の大切さを噛み締めています。

コロナ危機と、収支不均衡の構造が続いてきたことによる財政危機。本市は現在、そんな“2つの危機”に直面しています。同時に、人口減少や地球温暖化など様々な社会課題にも立ち向かっていると看做されます。区民の皆様の心強いお取組の一つ一つが、困難を乗り越え、より良い社会を目指すための大きな力となります。

自然に恵まれ、京都の“顔”ともいえる名所、文化資源に溢れたまち北区。北区の明るい明日への礎として、この度策定した「北区基本計画」を基に、それぞれの地域の魅力とすばらしい「地域力」、「文化力」を、暮らしの豊かさとまちの活力につなげていきます。ひいては、それが京都市全体の未来を創ります。そして、オール京都で共に、「誰一人取り残さない」持続可能な社会の構築に力を尽くして参る決意です。北区の皆様のを結集し、北区、そして京都市の明るい未来を切り拓いて参りましょう。

最後になりましたが、本計画の策定に御協力いただいた方々、貴重な御意見を寄せてくださった全ての皆様に、この場をお借りして、心から感謝申し上げます。



京都市北区長 武田 淳

“つながり”の力で魅力ある北区のまちを次世代に

「北区基本計画～“つながり”の力で進めるまちづくり～」が完成しました。本計画の策定に御協力いただきました皆様に心から感謝申し上げます。

人口減少の本格化と地球温暖化の加速、そして新型コロナウイルスの発生と財政のひっ迫など私たちを取り巻く環境は、前計画策定時と比べて大きく変わりました。そうした厳しい状況で北区のまちづくりとはどうあるべきか。また、どのように進めていくべきか。その問いに対し、北区民まちづくり会議など様々な機会をとおして議論を重ねてきました。その過程から浮かび上がったのが、北区に息づく“つながり”と、その力を最大限にいかしていくという明確な方向性です。

北区に息づく“つながり”。これは北区を想い、まちづくりに情熱を傾けてこられた多くの方々が築き上げた財産です。この“つながり”を継承・発展させ、北区のまちを持続可能なものとするためには、これまで以上に多くの区民の皆様が自分事としてまちとの関わりを持つことが必要です。そして、本計画では、区民の皆様がまちづくりへの参加の第一歩を踏み出していただけるよう、まちとの“つながり”を持つためのヒントをいたるところに散りばめています。

本計画の実現には、区民の皆様をはじめ北区に関わる全ての方々の力の結集が必要不可欠です。まちとの“つながり”をとおして暮らしやすく、そして魅力あふれる北区、いつまでもいきいきと暮らせる北区を次世代に引き継ぐため、「チーム北区」で共に進んで参りましょう。

目次

1章 北区基本計画って？ P.1～

- ① 計画の位置づけ
- ② 目標年次
- ③ 策定経過

2章 どんな北区を目指す？ P.3～

- ① 北区が目指すまちの将来像
- ② 私たちを取り巻く環境
- ③ まちの将来像を実現するための13の目標
 - 1.環境と共生した持続可能なまち
 - 2.豊かな自然環境と共存するまち
 - 3.すべての人権が尊重されるまち
 - 4.区民主体で取り組む地域活動があるまち
 - 5.健康で安心して暮らすことができるまち
 - 6.安心安全なまち
 - 7.障害がある人との交流があるまち
 - 8.大学の力がいかされるまち
 - 9.地域ぐるみで支え合う子育て環境のあるまち
 - 10.災害に強く安心して住み続けられるまち
 - 11.地域に根差した生涯学習・文化活動のあるまち
 - 12.北区の特色ある産業をいかした活力あるまち
 - 13.賑わいある拠点があるまち

3章 ライフステージに応じた取組 P.11～

- ① あらゆる世代と共に基本計画を推進するために
- ② 10のライフステージ等ごとの取組アイデア
 - 子ども世代 / 若者世代 / 働き世代
 - 高齢世代1 / 高齢世代2 / 大学生 / 子育てする人
 - 北部山間地に暮らす人 / 障害のある人 / 外国から来た人

4章 取組を推進するためのリーディングプロジェクト P.33～

- ① 北区まちづくりプラットフォーム
- ② 6つのリーディングプロジェクト

参考資料 P.35

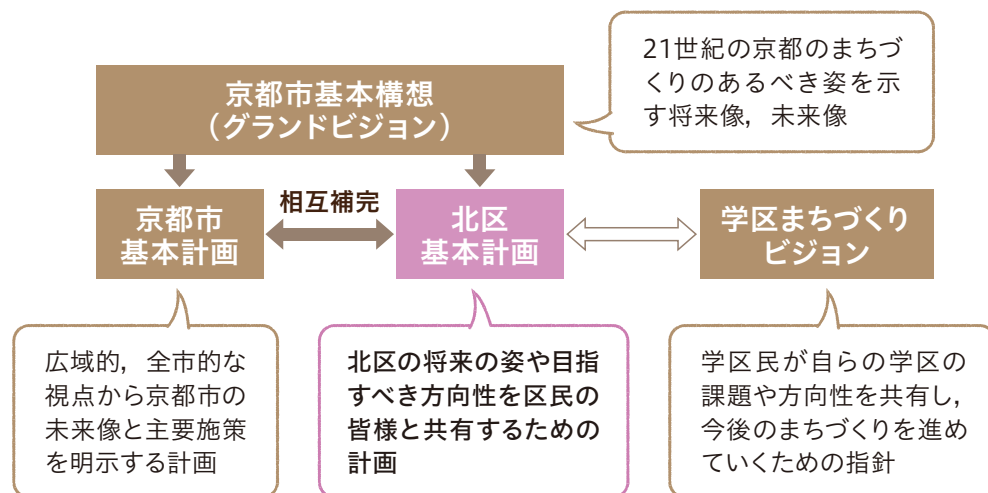
1 計画の位置づけ

北区基本計画は、京都市基本計画と同列に位置づけられ、相互に補完し合う関係にあります。京都市基本計画は、広域的、全市的な視点から京都市の未来像と主要施策を明示する都市経営の基本となる計画です。

本計画は、京都市基本計画を踏まえながら、更に、北区の独自性、地域の視点を加えて北区のまちづくりを進めるためのもので、北区

の将来の姿や目指すべき方向性を共有するためのものです。

また、学区民が自らの学区の課題や方向性を共有し、今後のまちづくりを進めていくための指針となる「学区まちづくりビジョン」の策定も進んでおり、区民の皆様が主体となった動きが北区基本計画の推進につながっていきます。



2 目標年次

北区基本計画は、令和7(2025)年を目標年次とした計画です。

3 策定経過

「北区基本計画」の策定に当たっては、多くの北区に関わる方々にご参画いただきました。平成25年11月には、専門的な見地及び区民の立場から幅広く意見を求めることを目的

として、25名の皆様からなる「京都市北区民まちづくり会議」(以下「まちづくり会議」という。)を設置し、議論を重ねてきました。



多くの区民を巻き込んだ部会での議論

令和元年度には、まちづくり会議の下に①人口減少部会、②防災部会、③高齢化部会、④文化・観光部会の4つの部会を設け、ワークショップ(参加者が討論や作業などを行いながら合意形成を図る手法)による議論を行いました。部会には、まちづくり会議委員はもとより、北区に関わる様々な主体が参画する北区未来につながる区民会議委員の皆様や各学区で積極的に活動されている区民の皆様、北区内の4つの大学(大谷大学、京都産業大学、佛教大学、立命館大学)の学生の皆様のほか、「北区民まちづくり提案支援事業^{※1}」や「北区つながるワークショップ^{※2}」の参加経験者等、延べ350名の方にご参加いただき、約1,000件にも上るご意見や取組アイデアが寄せられました。



※1北区民まちづくり提案支援事業

…区民の皆様の自主的・自発的なまちづくり活動を支援するため、その費用の一部を補助する事業

※2北区つながるワークショップ

…参加者の皆様が楽しく交流しながら、よりよいまちについて考え、行動するための一歩を踏み出すための対話型ワークショップ

部会名		日程	出席者数	参加者の例
単 独 部 会	人口減少部会 (部会長：藤野京都産業大学現代社会学部長)	6/25	41名	シェアハウス運営団体、 中小企業家同友会
	防災部会 (部会長：松岡佛教大学保健医療技術学部教授)	6/26	49名	地域包括支援センター、 京都ライトハウス
	高齢化部会 (部会長：志藤大谷大学社会学部長)	8/28	69名	民生委員、老人福祉員
	文化・観光部会 (部会長：河角立命館大学文学部准教授)	9/2	55名	能楽師、伝統工芸、茶道、 神社仏閣の関係者
合同部会 ※4部会の合同開催		12/17 12/22	79名 54名	単独部会に 出席いただいた方々

“つながり”で進めるまちづくり

このように議論を重ねた結果、北区では、「自分ごと」「みんなごと」のまちづくりの一層の推進を念頭に、区民一人ひとりの日常生活において、“つながり”が大切であるということが実感できるよう取り組んでいくべきだという大きな方向性が確認されました。

計画全体の推進には、“つながり”をつくるという方向性を盛り込み、素案をまとめました。

令和2年度のまちづくり会議では、より実効性の高い計画策定を目指し、計画の中で記載している「10のライフステージ等ごとの取組アイデア」について、ワークショップ形式で議論を深めました。各分野の専門家である委員の皆様からは、「各分野の既存の取組をしっかりと把握する必要がある」、「計画を進めていくためには、我々も主体的に、住民参加で進めていくことが大変重要なポイントだ」といったご意見をいただきました。

それらのご意見を踏まえた計画案により、令和3年4月6日から5月17日には、パブリックコメントを実施し、114名の方からご意見・ご感想をいただきました。



1 北区が目指すまちの将来像

豊かな自然の恵みと伝統ある文化の中で、
人々がお互いに支え合い、
活力を持っていきいきと暮らすまち

前計画では、北区民円卓会議、北区基本計画策定懇談会、北区基本計画策定100人委員会での討論、さらにはアンケート調査等、幅広い議論を積み重ね、将来像として「豊かな自然の恵みと伝統ある文化の中で、

人々がお互いに支え合い、活力を持っていきいきと暮らすまち」を定めました。今回の計画においても、この区民を挙げた議論から生まれた将来像を引き継ぎ、その実現に向けて新たな取組を推進します。

2 私たちを取り巻く環境

「まちの将来像」は、変わることのない理想像として、前計画から本計画へそのまま引き継ぎましたが、私たちを取り巻く社会経済情勢は、前計画の策定時から大きく変化しています。

特に、4つの大きな変化があります。

(1) 新型コロナウイルス感染症の影響

新型コロナウイルス感染症の拡大は、差し迫った生命の危機をもたらすだけでなく、経済活動の停滞を引き起こしています。また、人と人との関わり方も大きく変化し、地域活動も縮小を余儀なくされています。

(2) 引き続く人口減少

人口減少、少子高齢化の傾向は、大きなうねりとなっており、国の長期推計でも、この傾向は今後も続く見通しです。北区においても、昭和50年をピークに人口減少に歯止めがかからず、高齢化率も29.2%と本市で3番目に高い水準となっています。

(3) 進む地球温暖化

地球温暖化が一因とされる、毎年の豪雨、巨大台風、猛暑、豪雪など極端な気象により、

私たちの生活は脅威にさらされています。北区においても、平成30年7月豪雨では、山間部で土砂災害による通行止め、長期間の停電などの大きな被害が発生し、差し迫ったリスクとなっています。また、まちなかでも浸水想定区域が広がっています。

(4) 厳しい財政状況

これまで、京都市では、脆弱な財政状況の下でも行財政改革を行い、福祉・医療・教育・子育て支援など、国や他都市を上回る水準の独自施策を実施しながら、都市の魅力向上、経済の活性化、豊かな市民生活の実現等により財源確保に努めてきました。その結果、令和元年度には、市税収入が過去最高となるなど、成果は着実に現れたところです。しかしながら、今般の新型コロナウイルス感染症の拡大により、こうした成長シナリオに急ブレーキがかかり、京都市の財政は更に圧迫されることとなりました。このままでは財政再生団体となり、国や他都市を上回る水準の施策は一切できなくなる可能性もある、危機的な財政状況に陥っています。

3 まちの将来像を実現するための13の目標

上記のような厳しい社会経済情勢の中で、まちの将来像を実現していくために、具体的な13の目標及び取組を設定します。

豊かな自然環境を更に大切に育むとともに、脱炭素社会を目指す取組を区民ぐるみで進め、大切な地球を、住みよい北区を、次世代に伝えていきます。

老いも若きも手を携え、性別、障害の有無、国籍などに関係なく、お互いを尊重しながら、子育てしてよし、働いてよし、文化に親しみ、心豊かに、健康で長生きできるまちをつくりまします。

地域における支え合いは、平時はもちろん、災害時においても安心安全に暮らせるまち、また賑わいがあ

り、魅力溢れるまちづくりの原動力となるものです。

厳しい財政状況の中だからこそ、**区民、各種機関、商店街、企業、大学、行政等多様な主体が一体となり**、次代の担い手世代を巻き込み育てながら、まちの魅力を高め、人が集まり、経済が活性化し、更にまちの魅力の向上につながる**まちづくりの好循環を実現**していきます。

SDGs (5ページ参照) や**レジリエンス** (様々な危機からの回復力・復元力・強靱性) の考え方を踏まえ、厳しい状況に負けず、**誰一人取り残さない「地域力」**を発揮し、しなやかに、したたかに、**持続可能な「まちの将来像」**として実現していきます。



北区が掲げる13の目標とSDGsマーク

SDGs (Sustainable Development Goals) とは、誰一人取り残さない持続可能な社会の実現を目指し、2030年までに達成すべき17の国際社会共通の目標を示しています。

北区が掲げる13の目標でも、それぞれがSDGsのどの目標につながっているのかを明示しています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



北区独自の 18番目の目標



更に、迫りくる人口減少社会に危機感を抱き、取組を進めていくため、**北区独自にSDGs18番目の目標として「人口減少社会に立ち向かう」**を打ち出し、あらゆる取組において人口減少社会における課題に向き合います。

1. 環境と共生した持続可能なまち

私たち一人ひとりが、地球全体の環境問題を意識した循環型社会の実現に向けて取り組んでいきます



持続可能なまちの実現に向けて、京都市では「2050年に二酸化炭素(CO₂)排出量正味ゼロ」となる脱炭素社会の実現を目指しています。

この目標の達成に向けて、温室効果ガス削減の取組に加え、食品ロスの削減、プラスチックの資源循環などの2R(リデュース(発生抑制)・リユース(再使用))の推進や分別・リサイクルの徹底、新たにリニューアブル(再生可能資源の活用)に取り組むなど、ごみを出さない暮らしや事業活動への転換を図っていきます。

主な取組

ニコニコ北っ子「子ども服リユース☆事業」

不要になった子ども服や絵本を収集し、必要とする家庭に無償で譲渡する取組を実施。



2. 豊かな自然環境と共存するまち

豊かな自然環境を北区固有の地域資源として、みんなが誇りと親しみを持って大切に保護し、次世代に継承していきます



北区には、自然豊かな山林があり、北山の山並みや北山杉の美林景観が見られるほか、まちなかでも京都を代表する川である賀茂川や天然記念物に指定されている深泥池生物群集の水辺環境、森林浴が楽しめる船岡山など、身近に触れられる自然がたくさんあります。これらの豊かな自然に恵まれた環境との調和に配慮しつつ、生物多様性の保全・回復にも取り組み、安心して住み続けられる環境づくりを進めていきます。

主な取組

北山三学区ホームページ(移住促進の取組)

移住希望者向けに、北部山間地で暮らす魅力を発信するとともに、移住支援情報や、移住後の困りごと等に対応するための情報を発信。



3. すべての人権が尊重されるまち

性別、性的指向や性自認、年齢、障害の有無、生まれや生き立ち、国籍、民族などに関係なく、全ての人がお互いを認め合い、より豊かな人間関係が形成されることを目指して、啓発活動等に取り組んでいきます



少子化、国際化、情報化等社会が様々に変化する中、考え方や生き方が多様化しています。また、新型コロナウイルス感染症により、人との関わり方への大きな変化も生じています。どのような状況下でも、人と人との緩やかにつながり、差別や偏見のない、人権が尊重される明るい社会を築いていきます。

主な取組

人権のつどい

北区「人権のつどい」では、いじめ、LGBT、多文化共生社会、子ども虐待、障害など様々なテーマを通じた講演等を実施。



人権月間の取組

人権が尊重される明るい社会を築いていくため、学校や地域、職場などにおける人権教育・啓発の取組を推進。



4. 区民主体で取り組む地域活動があるまち

個人のライフスタイル、価値観の多様化や地域社会の変化に対応し、**“つながり”による多様な取組を進めていきます**

単身世帯の増加やライフスタイルの変化など、様々な要因により自治会・町内会加入率の減少が続いており、地域活動の担い手不足などの課題にも直面しています。ワークライフバランスを実現しながら地域活動にも積極的に参加することは、自身の生きがいと充実感の醸成とともに、住みよいまちの維持・発展につながります。区民一人ひとりが地域コミュニティに関わりを持つためのきっかけづくりや、PTAや若い世代の方々が企画するイベント等をサポートする取組を進めていきます。

主な取組

学区まちづくりビジョン
学区民が自らの学区の課題や方向性を共有し、まちづくりを進めていく指針となる「学区まちづくりビジョン」を策定。

紫竹SPAT（スパット）

紫竹学区の自治会活動の活性化を目指す30～40代の若手有志による会。地域住民が楽しみながら自治会活動に関わることができる各種行事の企画を実施。



5. 健康で安心して暮らすことができるまち

高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう取組を進めていきます

北区は高齢化率が京都市で3番目に高い区となっています。あらゆる世代に健康への関心を高めてもらい、「健康寿命」の延伸を図るため、全世代を対象とした健康づくりに取り組んでいきます。また、高齢者が住み慣れた地域で心身共に健康で、生きがいを持ち、安心して暮らすことができる環境整備なども進めていきます。

主な取組

健康長寿のまち・北区

区民がいいきと健康で過ごせるまちづくりを目指し、北区オリジナル健康体操「Happy☆キタエちゃん体操」や「インターバル速歩」の普及啓発等、区民ぐるみの健康づくりを推進。

北区高齢すこやかステーション
高齢者に関わる多様な機関（介護事業所、病院、銀行、コンビニなど）が「北区高齢すこやかステーション」として登録（341箇所（令和2年11月末時点））し、高齢者の見守りや情報の提供、関係機関へのつなぎなど幅広い活動で連携。



9. 地域ぐるみで支え合う子育て環境のあるまち

多くの地域住民等が子育て支援に参画し、子どもの成長や子育てを地域全体で温かく見守り、支え合えるよう取組を進めていきます



社会全体で出生数が減少する中、北区でも子どもの数は減少しています。

一方で、子育て家庭を支援するため、身近な場所で子育てサロンや交流が行われています。子育て家庭の孤立防止や育児困難感の軽減のために、妊娠中や産後早期から子育て支援の場につながり、安心して出産・育児ができる環境を整えていきます。

主な取組

ニコニコ北っ子

「つながるフェスタ」

様々な触れ合い遊びを行いながら、乳幼児・保護者と地域で児童や子育てに関わる支援を行う主任児童委員等とが出会い、交流する取組を実施。



新生児等訪問指導事業

（こんにちは赤ちゃん事業）

保健師や助産師、保育士が生後4箇月までの乳児のいる家庭を訪問し、赤ちゃんの体重測定や健康状態の確認、お母さんの産後の体調や生活、育児等について相談を実施。



10. 災害に強く安心して住み続けられるまち

区民一人ひとりの防災意識と災害対応力を向上させ、要配慮者等の避難時に地域の支え合いが十分に発揮されるよう、地域防災力の更なる強化に取り組んでいきます



甚大な被害をもたらす異常気象が常態化し、区内でも多くの被害が発生しています。高齢化社会が進展する中、大規模な自然災害に備える重要性がますます高まるとともにウィズコロナ社会における感染防止対策を講じた避難所運営など、今までにない対策が必要です。

災害による被害軽減のため、コロナ禍での感染対策や高齢者、妊産婦、障害のある方等の要配慮者への支援の視点を取り入れた訓練や研修、啓発を行い、いざという時に手を取り合って避難できるよう、地域におけるつながりづくりに取り組みます。

また、災害時の情報共有に有効なメディアとなるラジオを日頃から活用し、啓発活動等を実施します。

主な取組

北区総合防災訓練

住民、地域団体、行政が連携して、コロナ禍での避難所運営・ペット避難・救出救護訓練等、大規模災害に備えた訓練を実施。参加者が自助、共助、公助の役割を認識することにより、防災意識の向上、地域防災力の強化を推進。



柏野学区防災まちづくり計画

柏野学区防災まちづくり委員会を中心に、まちあるきやワークショップ、学区民アンケートなどにより得られた意見を基に、平成30年3月に、地域の防災上の課題や対策のあり方をまとめた「柏野学区防災まちづくり計画」を策定。地域が一体となって、密集市街地における防災の取組を推進。



11. 地域に根差した生涯学習・文化活動のあるまち

まちの魅力やまちへの愛着を育むかけがえのない地域資源を次世代へ継承するとともに、まちづくりの様々な場面でいかします



世界遺産である賀茂別雷神社（上賀茂神社）や鹿苑寺（金閣寺）などの神社仏閣をはじめ、豊臣秀吉によって築かれた御土居、伝統的なまちなみなどの豊富な文化財や、五山の送り火、葵祭、やすらい祭などの伝統行事、地蔵盆や松上げ、どんどなど地域に根付く数多くの文化を次世代に継承するとともに、まちづくりの様々な場面でいかします。

主な取組

北区WAのこころ創生事業

家族や地域の絆、先祖を敬い子孫・未来に思いを致す心、自然への深い感謝の念など、「日本のこころ」を次世代に継承していくために、北区に縁のある“ホンモノ”の伝統文化の魅力発信等を実施。

「どんど」大宮文化振興会

地域の伝統行事として小正月に行われてきた火祭り。田畑の減少によりほとんど見られなくなった「どんど」を地域の子どもたちに継承するために、大宮小学校のグラウンドを使って実施。



12. 北区の特色ある産業をいかした活力あるまち

北区の自然環境や歴史文化等の地域の特性に育まれた、農林業や伝統産業、区民の生活を支え賑わいを創出する商業等、それぞれの特徴をいかした取組を進めていきます



インターネット通販の普及や生活様式の変化等により、伝統産業、農林業、商店街等を取り巻く環境が大きく変化しています。

北区固有の伝統産業や文化等をいかしながら、インバウンド（訪日外国人観光客）も含め多くの方々が「ほんまもん」を体験できる場や農作物の恵み、木材の心地良さに触れられる、食育・木育を身近な場所で体験できる場を提供するとともに、商店街の活性化に取り組んでいきます。

また、そうした「ほんまもん」をふるさと納税の返礼品として採用すること等を通じて、その魅力を全国に広めていきます。

主な取組



農産物品評会での食育授業



北山丸太セリ市の風景



商店街の夏祭り

13. 賑わいが生まれる拠点があるまち

便利で快適な生活基盤の整ったまちの創造に向けて、ハード・ソフトの両面から、必要な施策・事業を進めていきます



北区内外の快適な移動を支える、安全で利便性の高い交通環境、子どもから高齢の方まで様々な人の集い・憩いの場となる公園づくりなど、区民生活や都市活動を支える都市基盤の整備・充実を図ります。また、楽只市営住宅において、団地再生事業の実施に伴い生み出される用地が京都市北西部地域の活性化に資するよう、民間活力もいかなしながら、魅力と活力溢れる賑わいを創出していきます。

主な取組

船岡山を活かした魅力創出事業

金閣寺や上賀茂神社などに集中している観光客の分散化を念頭に、船岡山及びその周辺エリアの魅力を引き出し、全国に発信する取組を実施。



1 あらゆる世代と共に基本計画を推進するために

北区は、各学区における意欲的な地域交流行事、医療・介護機関、銀行等が連携した高齢者の見守り活動、若手の方々による地域活性化を目指した取組、地域住民による子ども食堂や子育てサロンの開設等、様々な領域で活発な地域活動が行われるなど、**地域コミュニティが持つ“つながり”が強いことに特色があります。**

前章に掲げる「まちの将来像を実現するための13の目標」に向けて、“つながり”を大切にしながら、**区民、各種機関、企業、大学、行政等多様な主体が一体となった取組が進んでいます。**

一方、全国的には、ライフスタイルや価値観の多様化などにより、地域活動との関わりが少ない方々も一定数見られます。“つながり”が強いこの北区においても、例外ではありません。

こうした中においても、北区がこれからも暮らしやすく、魅力的なまちであり続けるためには、より多くの区民の皆様が自分ごととしてまちとの関わりを持つ、“**つながり**”の力

によるまちづくりが重要な役割を果たします。

そこで、本計画では、**より多くの区民の皆様がまちとの“つながり”を身近に感じ、まちづくりに参加してもらえよう、あらゆる区民の皆様を包含する10のライフステージや属性（以下「ライフステージ等」といいます。）ごとに「13の目標」の実現に向けた取組を再整理。**これまでに皆様からいただいた、1,000件にも上る取組アイデアを10のライフステージ等ごとに集約し、具体的なアクションとして示しています。この計画を見たあらゆる世代の方々に興味・関心を持っていただき、自発的、自然発生的に基本計画の推進が促進されるよう取り組んでいきます。

※3章で扱う「まち」とは、北区を範囲とした、そこに住む様々な人、社会福祉協議会や北青少年活動センターなどの機関、大学、企業、行政も含めた多様な主体の相互の関係により生み出される、まちを育む「緩やかな連帯の場（ネットワーク）」を指すものであり、インフラなどの都市基盤を指すものではありません。

10のライフステージや属性

- | | | | |
|-------------------------|---|--------|---|
| ライフ
ス
テ
ー
ジ | 1. 子ども世代
2. 若者世代
3. 働き世代
4. 高齢世代1
5. 高齢世代2 | 属
性 | 6. 大学生
7. 子育てする人
8. 北部山間地に暮らす人
9. 障害のある人
10. 外国から来た人 |
|-------------------------|---|--------|---|

2

10のライフステージ等
ごとの取組アイデア

家族や暮らしの変化，学業や習い事などの忙しさから，異なる世代の人と関わる機会が減っているが，成長していく中で未来に多くの可能性を秘めている世代

子ども時代の思い出を地元でたくさんつくってほしい。
北区のような人と出会い，色んな価値観に触れてほしい。
まちはそんな風に考えています。



まちは手を取り合って
こんなことに取り組みます

様々な価値観と出会えるように，
北区のような人や場所，歴史，文化等に
触れ合う機会をつくります。

action
01 公園などを活用しながら，地域と子どもが
関わることをする機会をつくります

- 公園，寺社等を遊びの場所として活用するなど，地域の資源をいかし，子どもが集まるきっかけをつくります。
- 地藏盆や夏祭りなどで，子どもが企画したことをまちで実現できる環境をつくります。

action
02 子どもたちが多世代と共に安心して
過ごすことのできる居場所をつくります

- 児童館や地域で行われている子育てサロン，子ども食堂など，子どもが安心して集える居場所を増やします。

action
03 子どもたちが北区のような人，
仕事や暮らし，文化に触れる機会をつくります

- 文化的・歴史的な背景が違ふことによる価値観や特性，環境の違いに触れる機会をつくります。
- 地域企業や農林業など，北区にある身近な職業を体験できる機会をつくります。
- 北区に住む文化人などが講師となり，生活文化も含めた“ホンマもん”の文化や芸術を分かりやすく紹介したり体験できる講座を子ども向けに開催します。

まちで既に取り組んでいること

北区内の子ども食堂

北区には，商店街，飲食店，教会，大学，社会福祉施設，地域の各種団体等様々な主体が開催する子ども食堂があります。どのような環境に置かれた子どもでも優しく迎えてくれる子どもの居場所が育まれています。



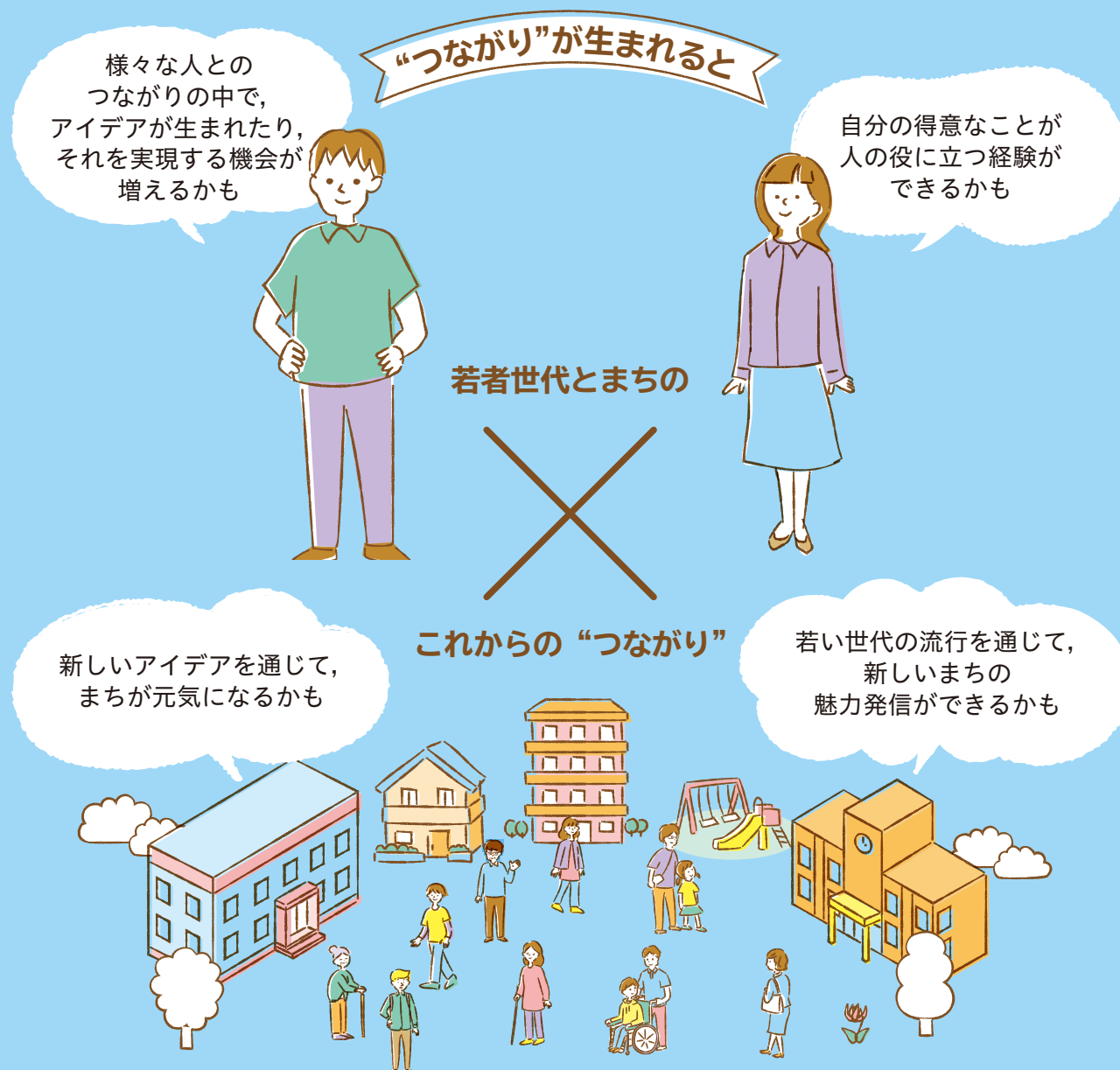
『新春上賀茂神社 子ども書初め』 上賀茂神社新春書道奉納実行委員会

子どもたちに伝統文化である書道をより身近に感じてもらうことを目的に，上賀茂神社において，書初めが行われています。また，字の上達を願って「書道上達願い納め」も実施されます。



就職などで地域との関わりが薄れる ことも多いが、社会での新たな出会い や経験を積み重ね、自分の可能性を模 索している世代

新たな出会いや経験から生まれるアイデアを
多くの人と共感してほしい。
新しい情報やツール等をいかして、まちを楽しんでほしい。
まちはそんな風に考えています。



まちは手を取り合って
こんなことに取り組みます

情報や流行に敏感な若者が出会い、
そこで生まれるアイデアが実現できるよう、
同世代が集える機会をつくります。
また、北区でのライフスタイルを
知る機会をつくります。

action

01

若者のアイデアを地域で共有し
実践する機会をつくります

- 若者に向けて情報をSNS※や各種メディアを活用して発信します。
 - 学区や神社のお祭などで、若者のアイデアや企画を実現できる環境をつくります。
 - 地域への愛着の基礎となる、同級生同士のつながりの継続や、趣味や興味を通じた新たなつながりづくりなどを支援します。
 - 「地域でこんなことしたい！」を起点に、アイデアを集め、実践につなげるしくみをつくります。
- ※人と人の交流を促進するためのインターネット上のサービス

action

02

若者が安心して過ごすことのできる
居場所をつくります

- 地域の行事等を身近に感じ、安心して参加してもらうため、同年代の参加者の声を紹介します。

action

03

北区に住み、働く人の暮らし方や
仕事を紹介する機会をつくります

- 地域企業や農林業など、北区にある身近な職業を知る機会をつくります。
- 北区内の多様な事業所や北区内でいきいきと働いている人のライフスタイルを紹介し、就職先候補を増やします。

まちで既に取り組んでいること

『ユースワーカーによる相談窓口』
北青少年活動センター

若者が将来に向けて自分自身の力で歩み出せるように、ユースワーカー（センターのスタッフ）が日ごろから関係をつくり、話しやすい存在として様々な相談に耳を傾け、サポートされています。



『パトラン（パトロール・ランニング）』
チーム KUSABI

赤色のTシャツが目を引く、若者を中心に構成されるランニンググループ。全国で走りながら地域の見守りに取り組まれています。令和元年夏には、区内初のグループが大將軍学区で発足。楽しみながら、緩やかにまちづくりに貢献できる好事例です。

